

# 令和4年度 第4回学校運営協議会 グループワーク 記録

令和5年2月24日（金）

**1班**：A委員、B委員、中学部主事、進路指導主事、副校長

## <今年度の取組について>

### A委員

- ・交流をとおして、生徒の成長や学びにつなげている。
- ・運営協議会での提案に対して、即効性を感じた。フットワークが軽く素早く活動を実行された。

### B委員

- ・パラサイクルでの子どもの興味や笑顔を感じられた。
- ・ボランティアを生かす教員の取組ができています。
- ・学校評価で、保護者評価が教員の評価よりも低いことを教員は理解してほしい。例えば、自転車から子どもを無理矢理降ろすのではなく、個々に応じた支援方法で対応してほしい。そういう姿を保護者は見ている。

## <次年度の取組について>

### A委員

- ・『挑戦』というキーワードで取組むのであれば、学校経営計画に記載するとよい。『挑戦』というテーマで、生徒、保護者、教員が挑戦することを決めて取組むと学校全体で目標に向かえるのではないかと。『挑戦』の裏にはリスクがあるので、そのために環境を整えてICFの考えで対応するとよい。
- ・学校経営計画の中期的目標を、○年計画の○年目だから、今年度の目標や評価は○○であるというタイムスケジュールを示すとよい。
- ・学校評価は、PDCAサイクルで行っており、学校運営協議会はどの段階でどのようにかかわっているのかを教職員に周知するとよい。また、それによって協議会の実施時期を決めるとよい。
- ・高等部が実施している、出身校へ訪問しての授業は今後も続けてほしい。高等部の先生は中学校から生徒を育てる意識を持つと良い。
- ・県立高等学校と地域で合同作品展を行うと、より注目度があるかもしれないし、生徒にも励みになるのではないかと。
- ・居住地を中心とした地域とのかかわりを増やしていきたい。居住地校交流は中学校以降になると希望をする生徒も少なく、中学校側も受け入れがスムーズにいかない現状がある。
- ・お茶の植樹やパラサイクルを機に、学校の活動の目玉をつくとよい。

### B委員

- ・市民活動センターでの祭り（11月）や行事に参加したり、NPO法人と協働で何かをおこなったりするのも、「地域」「貢献」になると思う。橋渡しができるので声をかけてほしい。
- ・地域の防災訓練や奉仕作業に、生徒を積極的に参加させることで、活動をとおして地域の方に生徒たちを知ってもらいたい。

## 2班：C委員、D委員、小学部主事、高等部主事、教務主任、事務長、教頭

### <令和4年度 学校評価について>

#### ① 元気1 [自分の身を守る] について

##### C委員

- ・ 保護者と教師は同じような意見だったが、児童生徒は違う。見方が違うのか、分からなかったのか、食育にしても健診(検診)にしても、教師が子ども達にどのように伝えているか？ 子ども達の理解度はバラバラなので具体的に噛み砕いて伝える必要がある。できればそのような時は関係機関と連携し、医療関連の人に来てもらって指導をしてもらうことも必要かも。
- ・ 地域の資源は存分に活用していきたい。子どもの理解度については、教師からのレクチャーも必要だが、『なぜ必要なのか』を伝えられると良い。

##### 小学部主事

- ・ 食育に関しては、栄養教諭を招いて授業をしている。

#### ② 元気3 [あいさつの定着について]

##### C委員

- ・ 目標に上がるのはなぜか？ 事業所でも挨拶について考えることがある。できない利用者さんがいて、「学校でやってくれなかったの？」と、教師の指導に不信感をもっている職員もいる。また、家庭ではどのように考えているのか知りたい。

##### 小学部主事

- ・ 学校でも挨拶(おはよう、ありがとう、ごめんなさい、いってきます等)について指導はしている。お辞儀をしたり言葉を発したりと個々の表出をしている。連絡帳やおたより、面談等で家庭にも返してはいるが、正直そこから先は家庭環境の差もあり、定着するお子さんもいれば、変わらないお子さんもいる。
- ・ 挨拶はずっと続くものだから、繰り返しの積み重ねによってある程度は身に付いていると思う。
- ・ 外部からのお子さんは難しい部分もある。また、特支のお子さんは、コミュニケーション面での難しさもあるので、積極性に関しては一概にうまくいくとも言えない。

##### D委員

- ・ 自分の息子が社会に出て結婚して返ってきた。挨拶ができていないと感じる。やはり家庭での問題かと思う。本校との交流は9年目となる。初めはお互いにドキドキしていたが、今は気楽に挨拶を交わしている。大人同士が挨拶を交わしているところを子ども達はよく見ているので、手本として良いのだと思う。

##### C委員

- ・ 逆に挨拶が問題にもなっている。ある女の利用者さんは、挨拶はできるのだが人との距離感が難しく、対異性では危険性も感じる。行き過ぎも難しい。

##### 小学部主事

- ・ 前項でも話したが、挨拶についても小学部の段階から、なぜ必要か？ お互いが気持ちよく元気になれる等の意味を丁寧に指導していきたい。

### ③ 笑顔9 [本に親しむ、表現活動について]

#### C委員

- ・ なぜ児童生徒の評価が低いのか？もっと高くても良い。自信を持ってほしい。とても良い表現力をしている。本は何でもよい、チラシでも絵本でも写真でも構わないから親しむ時間をもっとつくってほしい。

#### D委員

- ・ 交流では、温かい表情で表現力も豊か。とても成長を感じる。

#### 高等部主事

- ・ 図書室を利用して、親しむ時間はあるが、少ないかもしれない。

#### C委員

- ・ 自分が何者かを知ってほしい。(障害理解)知らないまま避けるように過ごすより、自主的にみられる場を作ってほしい。

#### 教務課長

- ・ 図書室には「光とともに」しかない。教育書はあるが、今後検討していきたい。